

はじめに

こんにちは、教育地域科学部・言語教育コース所属、4年生の片川絵里奈です。今学期から、北ドイツの港町「ハンブルク」での留学生活がスタートしました。この報告書では、私の大学での授業や課外活動、日々の暮らしぶりをお伝えしたいと思います。またドイツのお祭りや行事、生活習慣や文化にも触れていくので、これを機にドイツに興味を持っていただけると嬉しいです。今月は、寮での様子と、大学での日本語サポーター活動について紹介したいと思います。

ドイツ暮らしスタート！

日本を出発して14時間後、現地時間19時にドイツへ到着しました。ハンブルクには2年前にサマースクールで来たことがあるので、懐かしい気分です。着いた晩は、以前福井大学に交換留学に来ていた友人宅に泊まらせてもらいました。美味しい手料理を振る舞ってくれ、身も心も温まるひとときを過ごすことができました。



翌日1日に入寮申請をし、その後VISA、銀行、学籍登録、など怒涛の手続きラッシュが始まりました。書類はすべてドイツ語ですが、手続きには日本語学科のチューターが同伴してくれるので安心です。ただ、手続きには予約が必要であることが多いので、計画的に進めていかなければなりません。また契約時に書類や身分証明書の提示を求められるので、もらった書類と、パスポートは常に欠かせません。私は2度ほど、寮まで取りに帰ってようやく学びました。



授業開始は11月なので、日中は寮周辺を散策していました。左が街の中心に位置するアルスター湖です。湖の周りは木々が生い茂っていて、ところどころに遊具もあります。ジョギングをしている人が多く、なかにはベビーカーを押しながら走っている人もいます。日本ではあまり見ない光景ですね。ハンブルクは福井と同じように空がどんよりしていることが多いので、晴れの日のある光景を感じながら生活しています。

初めての寮生活

寮では、法学専攻のイスラエル、トルコからの学生、私と同じ日本学科へ通う日本人学生、の計4人（男子2人・女子2人）で生活しています。キッチン・バスルーム（男女別）を共有し、一人ずつの個室があります。主に英語で、たまにドイツ語で会話しています。

夜ご飯は大体みんな自炊をするので、それぞれの国の味を分かち合いながら、食卓を囲み、会話をすることもよくあります。私たちは手巻き寿司を作りました。実はこの米 **Milchreis**(ミルクライス)とって、デザートに使われるお米なのですが、日本米と形が似ているのでだしを入れて炊くことで味をつけ、食べています。ドイツにあるもので工夫しながら作るのもまた、面白いです。



日本語サポーター

こちらでは日本語学科に所属しているため、日本語を学ぶ学生と関わる機会が多くあります。そのひとつが、日本語サポーターです。現地の学生が履修している授業に、アシスタントのような形で参加することができます。これまでにひらがな、カタカナ、漢数字の練習を見ました。ドイツ語で授業が行われているため、日本語での「とめ」「はね」「はらい」をどのように翻訳するか、聞いていて参考になります。また漢字の覚え方が論理的で興味深いです。例えば、漢字の「四」「六」「八」を覚えるときに、「八」の形が“割り切れる”という意味のシンボルなので、「八」の形を見たら、偶数だと分かる。という風に、漢字の成り立ちから学んでいます。日本語についても学ぶことが多くあり、今後の活動が楽しみです。

名物 Fischmarkt

ハンブルクでは日曜日にだけ開かれる **Fischmarkt**（魚市場）という有名な市場があります。名物の「たたき売り」をはじめ、威勢のいい声が響き渡り、早朝とは思えないほど活気づいています。市場では、人との会話ができるのが魅力のひとつです。ドイツでは量り売りが主流で、kg 単位で売られていることが多く、市場では店の人に口頭で伝えます。また、会計するときには値段を聞き取るので、常に会話の練習になります。今回は購入するだけで満足しましたが、次に行ったときは、りんごの種類について説明を聞くなどして、もう少し長く会話することを目標にします。



次回は、大学の授業に関することを中心に、学校生活についてお伝えしようと思います。